

東北関東大震災

東電会長、やっと「廃炉」に言及したが…

IAEAは飯館村で「IAEA避難基準の2倍」を検出

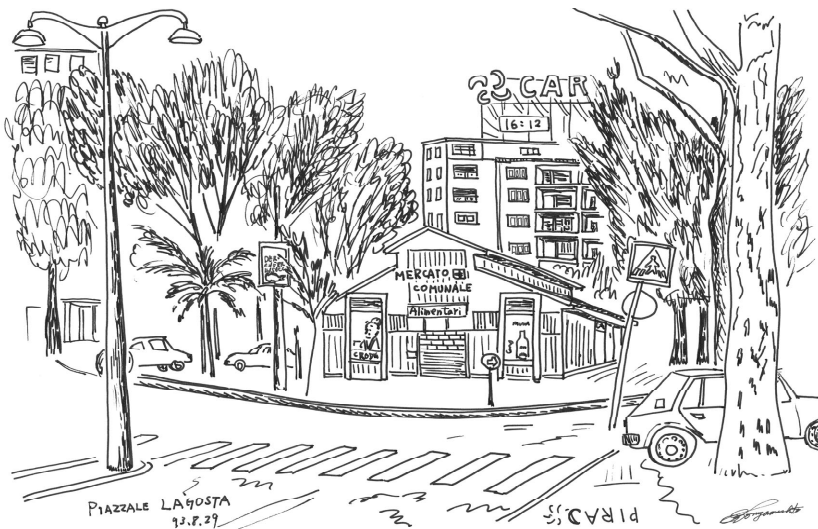
三月三〇日の記者会見で、東電の勝俣会長は福島第一原発の「四号炉について初めて「おそらく廃止せざるを得ない」と述べた。つまり、それまでは「廃炉にするな」との立場だったと云うことらしい。「廃炉にしても良いから、国民の安全を第一に考えて対策を講じるように」と指示していたら、早くから原子炉の冷却の為に海水を入れることが出来、水素爆発も防げたと思うが…。

被害者への補償について、勝俣会長は「免責」を口にしてている。「避難」させられ、農作業も牛もお店も、全財産を放り出し、住むところもない状態になった人々に、早々と「損害の全ては補償し

ない」と云っている。一方、個人としての賠償について問われると「プライベートにかかわる」と答えを拒否。全財産を差し出して避難所で生活してみたらどうだと云いたくなる。

国際原子力委員会(IAEA)は高濃度の放射性物質が土壌から検出された福島県飯館村の住民に対し、避難勧告を検討するよう日本政府に促した。風向きによって放射性物質の飛び方は変わる。汚染状況を調査して判断する方が正しいと思う。しかし、二〇キロ圏に固執する原子力安全委員会は、日本の基準では安全と強弁。日本もIAEAには加盟している。どうして日

本の基準の方が正しいと云えるのか？諸外国は説得できない。何かおかしな事ばかりですね。皆さんはどう思われますか？



ラゴスタ広場

広場中央にあるのはミラノ市営市場(メルカート)。中は、チーズ屋、生パスタ屋、魚屋、八百屋、果物屋、雑貨屋、肉屋さん等がある。面白いのは肉屋さんがいくつもあり、それぞれ、牛肉屋、馬肉屋、鶏肉屋、豚肉屋等に分かれている。矢張り肉食文化だ。

市場の周りを市電がぐるっと回ってUター

ンする。ある時、不届きにも、その線路上に小型乗用車が駐車していた。市電は「チン、チン」と鐘を鳴らすが誰も出てこない。すると、市電の中の若者が10人ほど下りて「よいしょ、よいしょ」と車を脇にどけてしまった。すると、おばあさん等を先頭に市電に乗っていた人々が口々に「ブラービ・ラガッツィ」=「素晴らしい若者達」と讃えていた。